

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校

学校番号

119

自己評価

学校教育目標	「ひとりだちのできる子」の育成（自立と社会参加の力を育てる） ・生活自立（基本的な生活習慣の確立・基礎体力の向上・基礎学力の定着） ・社会自立（情緒のコントロール・コミュニケーションスキルの獲得・規範意識や危険回避能力の育成） ・職業自立（自己理解・働くことの意義や役割の理解・職業に対する理解や実地的な知識・技能の習得）
評価する領域・分野	「教育活動の周知」（教育活動、保護者・地域連携、情報提供）
現状及びアンケートの結果分析等	・学校の雰囲気や児童生徒と関わる当校職員の様子、コロナ禍における安心安全対策等に対して保護者からは90%以上の評価を得ている。しかし一方では、今年度も学習の様子を参観する機会が少なく、学習の様子がわかりにくいという記述もあった。また、教育活動に係る保護者との共通理解や地域へ発信等の連携は、約12%の方が「あてはまらない」「わからない」等と回答している。更に、学校として丁寧に対応している内容（体罰、いじめ）についても、20%弱の方が「わからない」と回答されており、当校の取組が十分周知されていないことがわかる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・学校通信やホームページを活用した教育活動のタイムリーな配信に努める。 ・学校通信の地域回覧や報道機関等を通して活動の様子や外部作品展等の情報提供に努める。 ・QRコードを活用したHPへの紹介
重点目標を達成するための校内組織体制	・学校通信やホームページ内容の充実 ・学習支援部を中心としたホームページのレイアウト等の見直し ・部主事を中心とした教育活動の紹介・広報
目標の達成に必要な具体的な取組	学校通信・HP（ホームページ）を通して教育活動を配信 ・学校通信の定期的な発行と地域への回覧を通じた教育活動の周知に努める。 ・部だけではなく校内行事、外部支援等の情報をタイムリーに取り上げたり、生徒の声を取り上げた情報を掲載したりする。 教育活動を伝える場の拡充 ・作品展等の場に掲示するポスターにHPへのQRコードを掲載し紹介する。 ・報道機関・機関誌を活用し、教育活動の情報配信・理解啓発活動を行う。 ・作品展の感想や製品販売時の意見を、職員や生徒にフィードバックする。 ・生徒自身が発信できる場を設定する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学校通信の発行（年間6回）と地域への回覧（年間6回） ・個別懇談等の保護者や生徒からの意見や感想 ・学校運営協議会委員や地域等の外部の意見 ・学校評価アンケートの実施
取組状況・実践内容等	学校通信・HP（ホームページ）を通して教育活動を配信 ・学校だよりの地域回覧を通して、教育活動の紹介と理解啓発に取り組んだ。 ・「★きらり★」と題して、部・学校行事等の教育活動の紹介や外部の方の支援などの情報をタイムリーに掲載した。また、掲載情報を生徒と一緒に考えるなど、生徒の思いを配信できるよう取り組んだ。 教育活動のねらいや願いを伝える場の拡充 ・校外作品展・写真展等の場に、教育内容を紹介するポスターを掲示したり、掲示用ポスターにQRコードを掲載したりして、誰でも当校のHPを閲覧

	できるよう工夫した。 ・報道機関を積極的に活用し、教育活動等の紹介だけではなく、生徒が実際にインタビューに答えるなど生徒発信の場を設定することができた。 ・保護者懇談では、授業や行事に向けての取組み動画を視聴できるようにし、学習状況や児童生徒の様子についての理解を図った。	
評価の視点		評価
①本校の職員が、保護者や地域に対して、教育活動について伝えようとする意識をもつことができたか。 ②本校の教育活動に対する保護者の理解が深まったか。 ③本校の教育活動に対する地域の理解が深まったか。 評価の視点は3～4項目を原則とする。評価にあたっては以下の基準を参考とする。 A 十分達成した、B おおむね達成した、C やや不十分、D 不十分		A (B) C D A B (C) D A (B) C D
成果・課題		総合評価
○学習の様子を参観いただけない状況にあるため、保護者に対して学校・学級通信を通してお子さんの様子を伝えたり、HPに各部の学習や活動の中で「きらり」と光る情報を掲載したりするなど積極的な配信に努めた。 ○教育活動の理解啓発の一つとして、報道機関（新聞社）・情報発信機関（TV・ラジオ、地域情報誌）等へ情報を配信することができた。 ○学校通信を保護者だけではなく、学校近隣の住民等に回覧したり、学校通信・ポスター等にHP用のQRコードを添付したりして、教育活動の理解啓発に努めた。 ○授業参観・行事への参観ができなかったため、授業や行事の取組みの様子を撮影した動画を視聴しながら、懇談を行い、教育活動の周知に務めた。 ○高等部作業班（ビルクリーニング班）が、教育活動の一環として地域施設の清掃活動を行った。依頼やお礼等生徒が主体となって対応することができた。 ▲魅力あるHPとして、見たい・知りたいと思うような内容にするために、保護者や生徒からのアイデアを取り入れたHP作りに努める。 ▲PTAと連携したり、学校運営協議会でいただいた意見を参考したりして積極的な教育活動の在り方について検討し、開かれた学校として更に学校周知活動等の発信を工夫する必要がある。 成果と課題が明確にわかるように工夫して記述する。○成果 ▲課題		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・保護者が求める情報を整理し、教育活動のタイムリーな発信に努める。また、「見たい・知りたい」と思われるようなHPの工夫をする。 ・児童生徒の活動の様子や学習のねらい等を保護者や地域に発信し、当校の教育活動についての理解啓発。 ・作業製品の販売等を通して、学校のPRの工夫をすると共に学校近隣の住民との繋がりを作る。また、学校通信等回覧する地域を広げる。 ・今後も教育活動の理解啓発の一つとして、報道機関（新聞社）・情報発信機関（TV・ラジオ、地域情報誌）等へ情報を配信する。	

学校関係者評価（令和4年2月10日実施）

意見・要望・評価等
・教育活動の周知として、HRの活用だけではなく、地域での作品展・写真展等を通して地域に学校の取組みを周知しようと努めている。また、次年度に向けての方策がまとまっていてよい。 ・HPのレイアウトやデザイン、掲載内容の工夫や掲載内容の周知をするとより多くの方に閲覧してもらえるのではないかな。